



CHAPTER 10

タイムゾーンおよび更新間隔の設定

Prime CM Web クライアントで表示する更新間隔とタイムゾーンを設定できます。

アクティブなページは、設定した更新間隔に基づいて更新されます。このアクティブページに加えて、(ページの下部にある) [Alarm Browser] と [Alarm Summary] ペインも同じ間隔で更新されます。

すべてのページとテーブルには、ページまたはテーブルを更新するためにクリックできる [Refresh] アイコンが含まれています。

すべてのページで、表示される時間は Prime CM クライアント時間です。つまり、[Last Device Poll] フィールドおよび [Last Discovered] フィールドの Prime CM クライアント時間は、それぞれ [Home] ページと [Inventory] ページに表示されます。デバイスに表示される時間ではありません。

Prime CM クライアントの更新間隔とタイムゾーンを設定するには、次のようにします。

- ステップ 1** [Administration] > [User Preference Configuration] を選択します。
[User Preference Configuration] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Refresh Interval] ドロップダウンメニューから更新間隔を選択します。
デフォルトでは、更新間隔は 5 分に設定されます。
- ステップ 3** [Timezone Selection] ドロップダウンメニューから Prime CM クライアントのタイムゾーンを選択します。
デフォルトでは、タイムゾーンは、ブラウザのタイムゾーンに設定されています。
- ステップ 4** [Save] をクリックします。

Prime CM サーバのタイムゾーンを設定するには、次のようにします。

- ステップ 1** インストール中に作成したアカウントを使用して Prime CM サーバにログインします。デフォルト設定は、*admin* です。
- ステップ 2** 次のコマンドを入力して、サポートされているタイムゾーンのリストを表示します。

```
cm/admin# show timezones
```
- ステップ 3** Prime CM サーバのタイムゾーンを設定するには、次のコマンドを入力します。

```
cm/admin(config)# config t
cm/admin(config)# clock timezone US/Pacific
cm/admin(config)# exit
```

ステップ 4 実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーするには、次のコマンドを入力します。

```
cm/admin# write memory
```

ステップ 5 Prime CM サーバを再起動するには、次のコマンドを入力します。

```
cm/admin# application stop emsam
cm/admin# application start emsam
```

ステップ 6 2～3分待機し、次のコマンドを入力して、Prime CM アプリケーションステータスを確認します。

```
cm/admin# show application status emsam
```

次に、status コマンドの出力例を示します。

STAT	PID	USER	COMMAND	ELAPSED
S<l	16583	root	Decap_main	7-22:30:28
S1	17268	cmuser	emsam_diag	7-22:30:00
S1	17233	root	emsam_fault	7-22:30:00
S1	16587	root	emsam_mq	7-22:30:28
S1	16844	root	emsam_poller	7-22:30:20
S1	7261	root	emsam_tomcat	7-16:12:11
Ss	16730	oracle	oracle	7-22:30:27
Ss1	16629	oracle	tnslsnr	7-22:30:28

ステップ 7 タイムゾーンが新しい値に設定されているかどうかを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
cm/admin# show timezone
US/Pacific
```

サポートされるサーバの時間帯

サポートされているサーバのタイムゾーンのリストについては、[ここ](#)を参照してください。